

第11回 総合学科発表会

1年間の総合学科の取組みを総括する総合学科発表会。11期生諸君は「舞台班」「展示班」「冊子班」に分かれて準備を進めてきました。ステージ上で堂々と発表してくれた「2分間スピーチ」や「自身体験学習」、そして「進路校外学習」の発表者の人たちは勿論のこと、それ以外にも様々な形で11期生一人一人が今回の発表会を支えてくれました。主役は全員。スポットライトを浴びた人も、それをあてた人も、暗転の中で走った人も、お客さんに一生懸命説明した人も、人の見ていない所で頑張った人も、全員がそれぞれになくしてはならない役割を果たしたのです。奇しくも発表会の冒頭で校長先生が「リーダーシップを育てるとともにフォロワーシップを育てる」というお話をされていました。支える力の備わった組織はこれほど強いものはないと思います。そういった意味で11期生諸君の今回の頑張りは、賞賛に値するものだと私は思っています。そこで今回は色々な係や立場で頑張った生徒諸君に発表会を通して感じたことなどを、少しずつコメントにしてもらいましたので紹介します。その内容もさることながら、この原稿を集めていてもう一つ嬉しかったことがあります、それは紙面最後に書くことにします。



「君達にまかせる」



(展示班統括スタッフ副リーダー)

1年1組 久保 雄治

展示班統括スタッフの仕事は大きく分けて2つありました。ひとつは班の皆をまとめ展示物作成の作業を円滑に進めること、もうひとつは装飾物を立案・製作することです。特に苦労したのは、装飾物の製作でした。展示物の隙間に装飾物を飾るのですが、「夢への架け橋」というテーマだけを元に個数、サイズ、各クラスへの作業配分、体育館のレイアウトまで全て自分達で考えなければなりません。また装飾物はテーマにちなんだ意味のある物にする為、その試行錯誤に多くの時間を費やしました。今回の作業では先生方もほとんど口を出さず「君達の若い感性でアイデアを出してくれ」と毎回のように言われました。私達のちょっとした発言や何気なく出したアイデアがそのまま採用され総合学科発表会に表れるというプレッシャーや、発表会までの時間との戦いもありました。しかし自分達の手で一から作り上げた達成感と、よりよい案を出すために意見しあった充実感は、他の班にも負けない自信があります。苦労も多かったです、統括スタッフをやって良かったと思います。

「A級品を目指して」

(冊子班3組クラスリーダー)

1年3組 高橋 博幸

総合学科の冊子は232人分236ページからなり、それを315部作らなければなりません。先生は「本屋に並んでいるようなA級品を作りましょう。」と言われました。初めは難しくはないだろうと思っていたのですが、後にそれは甘い考えであったと思い知らされることになったのです。

クラスリーダーだった私は、入力終了した原稿をミスがないか等をチェックする校正係にまわし、またそれを入力係に戻すということの繰り返しをしていました。また長時間パソコンと睨めっこしながら入力もしていたので、目や肩が疲れ大変でした。やっとのことでそれが終わり、次に印刷や印刷した紙を重ねていく工程に入ったのですが、そこで問題が起きました。両面印刷したはずの紙が片方だけ白紙になっていることや、順番に重ねたはずのページが飛んでいたのも、全ての重ねたものを見直したりしました。

そんな大変なこともありましたが、多くの人が放課後遅くまで残って作業してくれました。部活動より遅く終わったこともありましたが、全ての冊子がA級品とまではありませんでしたが、文章を書いた私たち総合学科11期生の思いや、冊子に携わってくださった先生方の思い、そして冊子班全員の思いが詰まったオンリーワンの冊子です。必ず一度冊子を開いて目を通し、これからずっと大切に持っていてください。私たちが1年間歩んできた素晴らしい足跡がそこにあるのです。



「伝える」ということ

(冊子班新聞係編集長)

1年4組 岸原 直矢

新聞係のスタートは決して良いものではありませんでした。係決めでなかなか新聞係をしたいという人が現れず、時間がかかってやっとの思いで集まった5人。最初は不安しかありませんでしたが、編集長にもなり「やるからには全力でやろう。」という決意を胸に、これまで精一杯頑張ってきました。

実際に新聞を作ってみると、これがすごく大変で、どうやったら読む人の興味を引けるか、読みやすい記事とは何か、などたくさんの戸惑いや苦労がありました。でも困った時には新聞係の仲間が支えてくれました。共に悩み、意見を出し合うことで、全員の100%の力を一枚の新聞にぶつけることができました。私はこの新聞係で「伝える」ことの難しさと、仲間と支え合うことの素晴らしさを学び、また一歩成長できたと思います。



「説明する大変さ」



(展示班説明係)

1年3組 東原 亜未

展示の説明はとても緊張しました。まず説明しようと思っても、お客さんは流れるように見ていくから、どのタイミングで説明したら良いかわからなくて、どうしようという気持ちで一杯でした。でもある来賓の方が「説明していただけますか？」と声をかけてくださったので、説明することができました。その後も、先生方や友達、先輩が私たちの展示を見に来てくれてとても嬉しかったです。人の優しさがとても身にしみた発表会でした。

「力をあわせて…」

(舞台班 産社司会)

1年6組 山口誠也

僕は舞台班で産社司会をさせてもらいました。産社の部分の司会進行のみで台詞は短いのですが、いざ照明が当たると緊張し思わぬところで読み間違えたりして大変でした。責任は重く、大変な仕事でしたが、もう一人の産社司会の絹川さんを始め、多くの先生方の助けもあり、無事に成功させることができました。進路校外学習では発表者として、そして今回の総合学科発表会では裏方としての経験をし、改めてスポットを浴びる発表者の下で舞台を円滑に進めるために力を尽くしている裏方がたくさんいること、舞台はみんなの力で動いていることを実感でき、いい経験になりました。

「色々な気持ちを伝える」

(舞台班発表係 「産業社会と人間」を学んで)

1年3組 山本 昌城

僕は人前に立つのは苦手で、すぐ緊張してしまい、総合学科発表会の舞台で発表することは不安でした。でも日を重ね、練習やリハーサルをくり返していくと、裏で発表会のために動いてくれている人たちが大勢いることに気づきました。自分はその人たちが作ってくれたものの上に立って、発表をさせてもらえるんだと思うと、自分が思っていること、産社で学んだことをしっかり伝えたいと思えるようになりました。本番はとても緊張しましたが、先生方をはじめ友達からもとても嬉しい言葉をたくさん頂きました。心からあの舞台に立って発表出来たことを幸せなことだと思いますし、同時に大きな誇りです。自分がこんなにも貴重な体験ができたのも、大切なことを学べたのも、支えてくれていた人たちのおかげだと思っています。ありがとうございます。



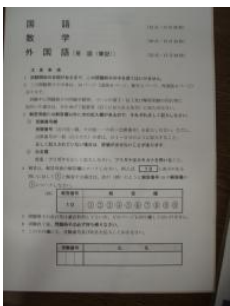
10期生の先輩方や9期生の先輩方も総合学習、課題研究、そして特色科目など沢山のパートにおいて発表をして下さいました。2年次の発表では「総合学習」でどんなことを学ぶのかということや、海外修学旅行のイメージも随分具体的になったと思います。また3年次生の「課題研究」の発表ではその内容が如何にハイレベルであるか伝わってきました。最後の「総合学科に学んで」でも3年次生の立派なスピーチに発表会の締めくくりに相応しいものを感じ「さすが!」と思われました。1年後、2年後に皆さんも諸先輩方に負けない伊丹北高生として成長した姿を見せてほしいと、そんな気持ちで先輩方の発表を見ていました。

さて、最初に述べたもう一つ私が嬉しかったこと。それはこの原稿依頼、色んな人に「学年通信の原稿書いて!あさってまでに!」などと突然のお願いをしたのですが、誰一人嫌な顔ひとつせず「わかりました!」と笑顔で引き受けてくれたことです。(勿論、先生に言われたら、しゃーないやろう…っていうのはあると思いますが、それでもそれが嬉しかったのです。)人によっては発表会前日リハーサルの最中であったり、発表会当日にお願いした人もあります。忙しい中、それでも快く引き受けてくれたのは、やはりこの発表会に対する思い入れが、それぞれにあったからだと思っています。それからここに紹介した人達はほんの一部であって、本当はもっともっと紹介したい頑張りを見せてくれた人は他にもいるということをつけ加えておきます。

舞台、展示、冊子…それぞれに色んな所でキラリ光る職人技。仕事の数だけヒーロー、ヒロインがいる。リーダーシップとともにフォロワーシップをも多くの人が学び、発揮した、そんな総合学科発表会だったと思います。



センタープチ



2月10日に進路HRの一貫として、先月行われた「大学入試センター試験」で実際に出题された問題から、1年で既習のものを選びすぐり、解いてもらいました。英数国の3教科だけで、しかも時間に合わせた為、ごく少量でしたがどうでしたか?表紙から綴じ方まで本物にこだわって用意して頂きました。結構抜き打ちだったので、動揺していた人もあったようですが学校の成績に入れるものではありませんので、その点は安心してください。

センター試験は1,2年で習う内容がほとんどで、しかも教科書をしっかり勉強することで十分対応できます。この1年で皆さんが学習してきたことや、今現在授業で習っていることが、既にこのように入試で出题されているのだという自覚を持ってもらう為に企画しました。受験生がセンター試験直前に受ける模試に「センタープレテスト」というのがあります。今回は「北高11期生センタープチテスト」ということで…。しっかり日々の学習に取り組むことこそが、受験勉強になるのだということを知っておいてください。